

# 「森と里と海のつながり - “心に森”を築く」時計台対話集会

巨木がたたずむ豊かな森、アユが躍る清流の里、潮の満ち干に生命があふれる渚。これら私達日本人の原風景は今では心の中にしか残っていないのでしょうか。この原風景の再現には、森と里、里と海、そして海と森のつながりの再生が不可欠と思われます。

京都大学は2003年(平成15年)4月にフィールド科学教育研究センターを発足させ、森と里と海のつながりに人と自然の共存原理を求める新しい統合科学の誕生を目指しています。この新しい科学は、“つながり”の価値観の再生をも目指したものであり、今を生きる私達の心の中に“森や海”を築く運動とも深く関わるものです。この取り組みを多くの方々に広くご理解いただくために、京都大学総合博物館では6月2日(水)から8月29日(日)まで「森と里と海のつながり - 京大フィールド研の挑戦 -」を開催します。そして、この企画展の開催に当たり、7月17日(土)・24日(土)の2回にわたり「森と里と海のつながり - “心に森”を築く」時計台対話集会を開催します。新しい科学と“森は海の恋人運動”が連携し、私達が次世代から借り受けている豊かな自然を再生し、そのまま贈り届ける責任を果たしたいと願っています。

「森」「里」「海」に興味のある方々のご参加をお待ちしています。

## 講師略歴



### C.W.ニコル

(作家、アフアの森財団代表)

#### 7.17(土)「森を築いて海を思う」

長野県黒姫在住。1980年以来、独自に森の再生活動に取り組んでいる。日本の自然破壊を憂い、様々なメディアで日本の現状を訴え続けている。著書に『勇魚』(文芸春秋)、『森と海からの手紙 C.W.ニコルの世界』(河出書房新社)、『森を創る森を語る』(岩波書店)ほか多数。



### 畠山重篤

(牡蠣の森を募る会代表)

#### 7.24(土)「海の恵みに森を思う」

宮城県気仙沼湾で牡蠣養殖業を営む。「森は海の恋人」をキャッチフレーズに、気仙沼湾に注ぐ大川源流の室根山に植樹運動を始める。また、子供たちに海の体験学習を行うなど、森と川と海の関連を訴える。著書に『森は海の恋人』(北斗出版)、『リアスの海辺から』(文芸春秋)ほか多数。



### 田中 克

(京都大学フィールド科学教育研究センター長 教授)

#### 7.24(土)「渚から森と海を思う」

専門は海洋資源生物学。稚魚の生理生態研究。有明海特産種稚魚の長期研究より、大陸沿岸遺存生態系仮説を提唱し、森里海連環学の創生を展望。著書に『魚類学下』(共著、恒星社厚生閣)、『魚類の初期発育』(恒星社厚生閣)、『スズキと生物多様性』(共著、恒星社厚生閣)ほか。



### 寺島 紘士

(シップ・アンド・オーシャン財団 海洋政策研究所長)

#### 7.24(土)「海の再生のために森里海を思う」

1965年東京大学法学部卒。運輸省時代、海上保安庁主計課長、大臣官房審議官等の要職を歴任。日本財団常務理事を経て2002年より現職。わが国の海洋政策の策定に向けて各種提言をまとめるとともに、東アジア海域の環境管理パートナーシップ、海洋教育の拡充などで活躍中。



### 梅本 信也

(京都大学フィールド科学教育研究センター助手)

#### 7.24(土)「森と海をつなぐ里の文化」

研究テーマは照葉樹林文化圏と黒潮文化圏の自然と人間の共生。2002年に紀伊大島の住民らと黒潮文化研究会を発足。著書に『紀州里域植物方言集』(プレスネット印刷)、『照葉樹林文化論の現代的展開』(共著、北大図書刊行会)、『紀伊大島フィールドガイド - 自然編 -』(ほか)。



### 安田 喜憲

(国際日本文化研究センター教授)

#### 7.24(土)「森と海を結ぶ文明論」

専門分野は環境考古学。古代文明の比較研究。「環境考古学」という新たな分野を、日本で初めて確立した。著書に『環境考古学事始』(NHKブックス)、『ブナ帯文化』(共著、思索社)、『森林の荒廃と文明の盛衰』(思索社)、『日本よ、森の環境国家たれ』(中央公論新社)ほか多数。

## 会場までのアクセス

### 京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

京都駅(JR・近鉄)から  
市バス「京都駅前」より  
206系統「東山通 北大路バスターミナル」行 約40分 「京大正門前」下車  
17系統「河原町通 錦林車庫」行 約40分 「百万遍」下車

阪急河原町駅から  
市バス「四条河原町1」より  
201系統「祇園 百万遍」行 約30分 「京大正門前」下車  
31系統「熊野・岩倉」行 約30分 「京大正門前」下車

京阪をご利用の場合  
京阪「出町柳駅」下車 東へ徒歩約15分



## 春季企画展開催中 8月29日(日)まで

### 「森と里と海のつながり - 京大フィールド研の挑戦 -」

京都大学総合博物館(京都大学百周年時計台記念館からすぐ)

開館時間9:30~16:30 休館日 月・火 TEL.075-753-3272



30%  
Minimum

SA-coc-1220

FSC Trademark © 1996 Forest Stewardship Council A.C.

このチラシに使用されている繊維の30%以上は、適切に管理された森林から切り出されたものです。適切に管理された森林とは、FSCの規程に従い、独立した機関により認証された森林を指します。

# もり、さと、うみ

## 「森と里と海のつながりー“心に森”を築く」時計台対話集会

### 第一回

日時 七月十七日(土) 十三時三十分～十六時

講師 「森を築いて海を思う」C.W.ニコル(作家、アファンの森財団代表)

挨拶 田中 克(京大フィールド科学教育研究センター長)

司会 山下 洋(京大フィールド研 舞鶴水産実験所長)

### 第二回

日時 七月二十四日(土) 十三時～十七時三十分

講師 「海の恵みに森を思う」畠山重篤(社<sup>か</sup>の森を募う会代表)

「渚から森と海を思う」田中 克(京大フィールド研)

「海の再生のために森里海を思う」寺島紘士(海洋政策研究所長)

「森と海をつなぐ里の文化」梅本信也(京大フィールド研)

「森と海を結ぶ文明論」安田喜憲(国際日本文化研究センター教授)

挨拶 尾池和夫(京大大学総長)

司会 白山義久(京大フィールド研 瀬戸臨海実験所長)

会場 京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

入場無料(一般公開) 定員 各回先着500名

申込 京都大学フィールド科学教育研究センターまで、TEL・FAXまたはEメールでお申込みください。  
なお、FAX・Eメールについては、「対話集会申込」と明記の上、氏名、希望日、人数、TEL番号を記入してください。

<主催> 京都大学フィールド科学教育研究センター

問合せ先・参加申込 京都大学フィールド科学教育研究センター TEL.075-753-6414・6415 FAX.075-753-6451 E-mail:joho@kais.kyoto-u.ac.jp

<共催> 京都大学総合博物館 海洋政策研究所 <協賛> 株式会社大伸社 マックスレイ株式会社  
<後援> 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 産経新聞社 京都新聞社 JTBカルチャーサロン 京都府(予定) 京都市教育委員会(予定)  
様茶町 白糠町 舞鶴市 美山町 白浜町 串本町 古座町 古座川町 清水町 周南市(順不同)